

歌萬葉にも、家持家集にもなければ、おぼつかなけれど、柏はかれつれば玄ろくなれば白妙のかしはとつべくべし、白妙の香椎とは、葉に付ても、實に付ても、づべくべき理なき故に、玄ばらく現本に玄たがへり、猶正本を考べし。

〔松葉名所和歌集十〕昆陽渡 摄津類字、藻鹽、和郡、

能因法師

〔後拾遺和歌集九〕羈旅津の國へまかる道にて

〔夫木和歌抄三〕六百番歌合遊絲

正三位季經卿

津の國のこや。わたりのながめにはあそぶいとさへひまなかりけり

〔夫木和歌抄二十六〕武庫渡 摄津

能因法師

〔萬葉集十七〕天平二年庚午冬十一月、大宰帥大伴卿、被任大納言如舊帥上京之時、陪從人等、別取海路

入京於是悲傷羈旅、各陳所心作歌。

多麻波夜須、武庫能和多里爾、天傳日能久、禮由氣婆家乎之曾於毛布、

〔松葉名所和歌集七〕武庫渡 摄津仙覺抄ニ當國

知家

武庫の浦や朝みつ鹽の追風にあはしまかけて渡る舟人

〔伊勢參宮名所圖會四〕宮川山田の入口なり、是よ

一名度會川、豐宮川、齋宮川禁川と云、○中 渡し船は晝夜を分たず、満水の時も、兩宮の神官より人を出し、參詣人を渡さしむ、御遷宮の御時は舟橋をかくる、是上古齋宮、勅使參向の時の例なりとぞ、

〔大神宮參詣記〕宮川をわたてて、は山しげやまの陰にいたりて見れば、このもかのもの里道をひらきて、まことにひとみやこなり、爰を山田の原と申せば、○下略

昆陽渡

武庫渡

宮川渡